

令和 6 年度

事業報告

及び

財務諸表並びに収支計算書

一般財団法人 東海産業技術振興財団

事業報告

令和 6 年 4 月 1 日から

令和 7 年 3 月 3 1 日まで

本財団は 1987 年の設立以来 35 年を超える期間にわたり、東海地域の大学、企業等の研究者に対し、約 500 件、8.5 億円の研究助成を行ってまいりました。

この間、私たちを取り巻く環境は I T の進展等により大きく変化し、特に昨今の A I の急速な進展と普及は、社会のあらゆる領域に革新をもたらし、私たちの暮らし、産業構造、そして世界そのものを大きく変革する潮流となっています。

一方、日本の科学技術や経済の国際競争力は低下しており、その打開策として大学等の挑戦的な研究を核とした産学官連携のエコシステムが一層重要となっております。

このような状況のなか、私たちはこれまでの活動で培った産学官のネットワークの一層の活用を図り、社会のニーズに応えられるよう変革をしながら、東海発のイノベーション創発を通じて産業技術の発展に貢献してまいります。

1. 事業の概要

(1) 研究助成事業

次の内容で、令和 6 年度（第 37 回）の募集を行うとともに研究助成を採択しました。

① 募集内容

区分	一般発展型	研究育成型
	社会実装に向けた一定の成果が見込める産学官・産学・産官の共同研究	イノベーションを推進する挑戦的研究 や比較的初期段階の研究 ※共同研究であるか否かは不問
年齢資格	不問	応募年度の年度末時点で 4 0 歳以下
対象地域	東海地域（原則として愛知県、静岡県、岐阜県、三重県）において、大学、公的試験研究機関及び企業が実施する研究	
助成分野	産業技術の発展に資する研究全般に対する助成 【分野の例】環境関連、医療福祉技術関連、材料関連、電気・電子・情報関連、生産技術関連、バイオテクノロジー関連	
評価基準	①研究計画の妥当性、②研究の新規性、③社会実装及び応用の可能性、④共同研究の妥当性、⑤東海地域の産業振興への貢献、⑥研究実績	①研究計画の妥当性、②研究の新規性、③発展性・応用の可能性
助成金額	最大 2 0 0 万円／件	最大 1 0 0 万円／件
研究期間	2 年	1 年

② 募集期間

令和 6 年 10 月 1 日から 11 月 30 日

③ 応募件数、助成件数等（下段は前年値）

	応募件数	採択件数	助成金額（千円）
一般発展型	13 (18)	3 (7)	6, 000 (13, 400)
研究育成型	33 (20)	15 (9)	14, 600 (8, 200)
合計	46 (38)	18 (16)	20, 600 (21, 600)

④ 令和6年度（第37回）研究助成金交付決定伝達式の開催

令和7年4月14日（月）にホテルアークリッシュ豊橋において、採択通知書の授与の他、採択者17名によるショートピッチを行うとともに、過年度採択者（名古屋市立大学医学研究科堀田祐志 准教授）による研究成果や企業との共同研究に対する取組み等についての講演を行いました。

※実施日は令和7年度であるが、令和6年度研究助成事業の一連の活動として記載。

（2）産業技術に関する普及啓発事業

令和6年3月末日に研究を完了した、令和3年度採択の一般発展型5件（研究期間2年）、令和4年度採択の研究育成型11件（研究期間1年）の研究についての研究完了報告書等を、令和6年6月にHPで公表し、技術等の情報公開・普及啓発に努めました。

3. セミナー事業（産学官交流事業）

「東三河ビジネスプランコンテスト」（主催：株式会社サイエンス・クリエイト、東三河ビジネスプランコンテスト委員会）に協賛しました。

また、超異分野学会豊橋フォーラム（主催：株式会社サイエンス・クリエイト、東三河スタートアップ推進協議会 他）にブース出展を行い、多数の参加者に対して本財団の事業PRを行うことができました。

4. その他

過年度採択者に対して、助成研究終了後の3年間における助成研究テーマの進捗状況、助成制度についての意見等、継続的なアンケート調査に着手し、分析結果については理事会、評議員会、選考委員会、研究助成金交付決定伝達式で報告しました。また、収集した意見については今後の財団活動に活かしていく予定です。

●アンケート回答者数（下段は対象者数）

	（第31回） H30年度募集	（第32回） R1年度募集	（第33回） R2年度募集	（第34回） R3年度募集	計
一般発展型（研究期間2年）	6 (6)	4 (4)	5 (5)		15 (15)
研究育成型（研究期間1年）		10 (10)	10 (10)	11 (11)	31 (31)
計	6 (6)	14 (14)	15 (15)	11 (11)	46 (46)

2. 財団運営について

（1）会議体の運営

	会議名	開催日	主な議案
理事会	第74回理事会	R6/5/21	◆ R5 決算の審議 ◆ 評議員・理事・監事候補の承認（任期満了）
	第75回理事会	R7/3/5	◆ R7 予算の審議 ◆ R6 助成研究採択案の承認 ◆ R7 助成研究募集要項の承認
評議員会	第74回評議員会	R6/6/11	◆ R5 決算の承認 ◆ 評議員・理事・監事の選任（任期満了）
	第75回評議員会	R7/3/20	◆ R7 予算の承認
選考委員会	第1回幹事会	R6/12/19	◆ 応募案件の審査担当決定
	第2回幹事会	R7/1/20	◆ 採点結果による採択候補の決定
	第43回選考委員会	R7/2/19	◆ 理事会に諮る採択案の決定

(2) 特定資産の運用

社債 3 銘柄、180,000 千円の償還があり、新たに社債 3 銘柄、180,000 千円の社債を購入しました。毎年度の研究助成金の原資確保をはじめとする資金計画に基づき、財産運用管理規程に則った適切な運用を行いました。

年度末特定資産残高(7.6 億円／取得額ベース)に対する運用利回りは 0.71%(前年度 0.62%)となりました。

3. 今後の課題

本報告書の冒頭に記載のとおり、東海発イノベーション創出のエコシステムの一端を担うべく、産学連携への取り組みを強化していく必要があります。

一方、過年度採択者に対するアンケートでは、どのように産学官連携を進めていくのかわからないといった意見が多くあります。

ここ数年の取り組みとして、過年度の採択者に対する産学官連携や起業等に関連するイベント等の情報提供や、研究助成金交付決定伝達式における過年度採択者における好事例の報告を行っておりますが、今後は過年度採択者へのアンケート等の活用による情報収集と成功事例のフィードバック等の取り組みを一層強化してまいります。

以上

令和6年度 貸借対照表

令和7年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額		
	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	12,055,803	7,099,966	4,955,837
預け金	67,598	40,498	27,100
前払金	0	0	0
仮払金	341,483	0	341,483
			0
流動資産合計	12,464,884	7,140,464	5,324,420
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
特定投資有価証券	691,029,975	705,145,880	△ 14,115,905
研究助成資金	0	0	0
特定定期預金	60,000,000	80,000,000	△ 20,000,000
特定資産合計	751,029,975	785,145,880	△ 34,115,905
(3) その他固定資産			
電話加入権	72,800	72,800	0
その他固定資産合計	72,800	72,800	0
固定資産合計	751,102,775	785,218,680	△ 34,115,905
資産合計	763,567,659	792,359,144	△ 28,791,485
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払費用	20,658,306	21,604,042	△ 945,736
預り金	43,818	43,900	△ 82
流動負債合計	20,702,124	21,647,942	△ 945,818
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	20,702,124	21,647,942	△ 945,818
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	742,865,535	770,711,202	△ 27,845,667
正味財産合計	742,865,535	770,711,202	△ 27,845,667
負債及び正味財産合計	763,567,659	792,359,144	△ 28,791,485